

第 3 回別海町自治推進委員会 概要

開催日時：令和 4 年 11 月 10 日（木）午前 10 時 00 分から午前 11 時 45 分まで

開催場所：別海町役場 2 階 201 会議室

出席委員：鈴木秋弘、大森和男、武田隆、菅野笑子、平澤珠美、高橋智美、

大橋正汰、今井加奈

（欠席委員 吉野朋博、佐藤栄子）

<会議次第>

1 開 会

2 議 事

議題 1 前回の振り返り

議題 2 選定した協議テーマの検討

3 その他

4 閉 会

1 開 会

2 議事

議題 1 前回の振り返り

資料 1 を用い、前回の会議の内容について説明。

意見・質問

なし

議題 2 選定した協議テーマの検討

資料 2 を用い、「協働のまちづくり」としての解決策や不足部分の肉付けを検討した。

事務局

前回自治基本条例の各規定について参加委員のみなさんにその運用状況について気になる点等を付箋に書いてもらい意見を出し合いました。それを可視化して改めてまとめたものが資料 2 となっております。

出された意見はまず事務局として大きく 3 分野に分けてみました。それが左側の議会に関すること、中央の町民に関すること、そして右側の行政に関することです。まずはこの 3 分野の連携がうまく機能することによって、自治基本条例つまり協働のまちづくりがより進むものとの大筋の意見の方向性であったと認識しているところです。これをさらに事務局として 7 つのポイントにして提案させてもらいたいなと思っております。

それではどうすればこの 3 分野の連携がより強化されるだろうかということにつきましては、まず、中央、赤枠の意見、特に青い付箋の中間支援センターの設置、そしてその隣の黄色い付箋では中間支援センターに類似する既存の組織であります別海町町内会連絡協

議会を機能させる必要があるというような意見もありまして、これらの意見は本委員会の柱として、つまり今後の新たな取り組みとしてどのような具体性ですとか、説得性をもたせて町長に意見していくのか、まずこれが一つ目のポイントになろうかと思っております。よってこの赤枠のそばに①としてメモをしていただければと思います。

次に二つ目です。少し個別に見てまいりますと、上段の四角の枠、町民に関することですけれども、その内容ひとつひとつを見てまいりますと、見事に若者、子どもたちの育成に重きを置かれた意見が大半を占めております。自治推進委員会として、これからの若者に期待を寄せている表れだと感じたところでございますけれども、よって大筋としてこの町民に関することは子供たち、若者の育成ということで、町民に関することを②としたいと思います。

次に3つ目、右側の行政に関することですけれども、その中の情報共有に関することのうち青色の付箋、左から2つ、町のホームページやSNSの発信についての見やすさですとか、内容についての意見が出されております。どのようにすれば使いやすいホームページになるのかとか、どのようなSNSの発信方法にすれば、行政と町民がより身近になるのか等、行政事務の改善点として意見できる部分であると思いますので、この2つの付箋を囲んでポイント③としたいと思います。

その隣ですけれども、意見というよりこれまでの取り組みに対する感想というか、評価に関する意見かなと思いますが、パブリックコメントの概要版を作成するっていうのは昔から自治推進委員会の方で出されてた内容なんですけれども、これを最近行政は概要版を作るようにしていて、これはとっても良いじゃないかという評価的な意見ですけれども、これはたまたま行政の情報共有の関する取り組みに対してですけれども、町民とか議会や行政がお互いの取り組みに対していいねと言い合えるまちって素敵なんじゃないかなと、いいねとまでは言えないことがあったとしてもお互いの声に耳を傾けられることによって協働のまちづくり全体的に必要な要素になるんじゃないかと考えられます。一方で、その真下の青い付箋なんですけれども、匿名意見の募集方法の模索という意見があります。これも声に出せない声を拾う手法として最善の策だと考えておりますけれども、なにかと批判の声の方が多い風潮の中では、諸刃の剣と申しましょうか、匿名意見が批判ばかりの意見になってくる可能性があるということを考えると、なかなか難しい面もあるんですけれども、でも、やってみたい施策ではあるのかなと思います。よってどうすれば批判のみにならない、いいねという声も拾えるような匿名意見制度ができるのか、この委員会で肉付けして考えていけるのではないかとこの縦2枚の青い付箋をポイントの④とできるんじゃないかと思います。

次の5点目なんですけれども、町民参加と協働に関することの右端の青の付箋、懇談会や議会等のオンライン傍聴とありますけれども、これにつきましては現在議会等においても、いろんなところから要望が上がっていると聞いておりますので、検討段階には入っているのかなと考えております。この資料のマップ上の左側の議会に関することの内容と合わせまして、今後町長を経由して議会の方にも情報、意見を報告できるものとなるんじゃないかなということでここをポイントの⑤としておきたいと思います。

次の6点目なんですけれども、行政に関することのゾーンのうち、町民参加と協働に関すること、地域コミュニティに関することに貼られている黄色の5枚の付箋を⑥といたしま

す。この黄色の付箋の内容を見てみますと、青少年、子どもと地域の大人が一体となった取り組みが始まっていること、その取り組みについて別海町まちづくり補助金を活用しているけども、ちょっと使い勝手が悪いっていうことの内容の意見となっております。これはですね、先ほどポイント②といたしました子どもたち、若者の育成と関係が深いんじゃないかと考えております。若者の育成の取り組みが始まっているという視点での関係性の深さもあるんですけども、より若者の意見を加速させるためのきっかけのひとつとして、協働のまちづくり補助金の制度自体にもう少し工夫を持てるのではないかとという視点での関係の深さもあるんじゃないかなろうかということがこれらの意見を見て見えてきたんじゃないかなと思います。あくまで、例えばなんですけども、今の公募型補助金の規定にはないんですが、子供と大人がセットで取り組むような事業、これらに対しては補助率を上げるですとか、補助金の限度額を上げたらどうだろうかと、そうするとそのような事業に取り組む団体が増え、そのことが若者の育成に寄与するのではないかとということも考えられます。そのほか、人口減少ですとか世代交代、コロナ禍などで、様々な要因で住民が仲間を募って自主的にイベントや事業を実施する機会が減ってきているのかなと、それでも後期ではだいぶいろんな団体が申し込んでくれているんですけども、全体的にはそのような機会が減ってきているのかなという中の起爆剤として、期間を定めて補助率を上げるですとか、今だったら3年間やりますけども、4年目以降は自分たちでやってくださいねという内容のものを、例えば軌道に乗るまで5年はかかるから5年に延ばしたら団体組織が定着するだとか、挙げたらキリがないですけども、そのように現行の協働のまちづくり補助金の補助制度を丁寧に委員会で見ていって、委員会で改正提案もできるんじゃないかということでポイント⑥とさせていただいたところです。

そして、7点目なんですけども下段の行政に対する個別要望、これをポイントの7としておきます。現在、自治推進委員会での審議というのは行政の個別事業に対する要望とか提案は審議事項にはなっていないところなんですけども、自治基本条例そのものの中には、行政は総合計画を策定するという条文がありまして、解釈次第では策定された総合計画に対して意見もしていけるのではないかとということでポイント7としたところです。この点につきましては今日の最後の会議の方にその他の事項の中で、事務局からご提案というか状況報告させていただきたい点もありますので、ここでは詳しいことは割愛させていただきたいと思います。

以上、この7つのポイント、最後の行政に関する個別要望の件を除けば6つの協議ポイントとして事務局から提案させていただきました。この6つのポイントをこのまま町長取組んでくださいという投げっぱなしの形ではなく、こうだからこのように取組んだらどうかという具体性を持ったものを委員の皆さんの総意で考えていきたいなと思います。時間的制約もあるので、一度に6つのポイントができなくても、この委員会は2年間ありますので、内容的に重たいものは2年目に持ち越すことでもいいですし、必要であれば、年度内の委員会も増やしてもいいのかなと考えております。まず、本日はこの6つのうち、どれから方向づけて、優先順位をつけていくのか、そのようなところから皆さんで協議を始めていければなと思います。この6つのポイントで、他の捉え方をしている方もいるかもしれませんが、このように解決していけば三者関係、議会、町民、行政っていうものの回転がしていくんじゃないかと、どうやって肉付けしていって、年度内に町長に報告できる

部分、それとも来年に持ち越す部分がどのようになっていくのかということをお皆さんで意見を出し合っていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員から出た意見】

- ・地域ごとに違う要望意見があるので町内会の中である程度まとめていったほうがいい。リーダーの育成がやはり急務。後継者不足が大きな問題と思う。手っ取り早くまとめていくな町内会の協力をいただいて、ボランティアが難しければもう少し手厚い待遇を団体にしてやれば真剣に取り組んでくれるんじゃないかと思う。それと、別海町の総合計画を策定したとき、外部の人が策定メンバーにいたと思うが、意外と自分のところっていうのはわからなくて、外部の方から指摘されたほうがわかりやすいということがあったので、別海町の魅力として外部との連携も含めて発信していったらいいのではと思う。

- ・釧路のわっとに見学に行った時のことを思い出したんですけど、町民の団体の方が活動するときに有料なんですけど、印刷できるスペースと機械があったりロッカーがあって、別海は公民館がなんとなく団体の印刷とかできていたんだけど、生涯学習センターにはそういう感じの場所はなく、印刷もできなくて活動しにくい感じになっていると思った。

- ・世代を超えた町民参加ということについて、町内会という話が出たが、自分の世代になると、町内会を運営されているのは固定された方々で子育てを終えている方々がほとんどで、身近な存在ではない。私の住む地域は本当に過疎化が進んでいて、町内会の考え方と実際の子育てをしている父親、母親たちの考えがかけ離れている。地域は残したいと言われているが、実際にこれから大きくなっていく子どもたちのことを考えていると地域に縛られていて、これからの可能性の芽をだせないんじゃないかということを感じていて、私は別海町出身ではないので、外から見てもすごく地域に縛られているっていうか、もっと個人の意見が町に通ってもいいと思うし、町内会通さなくても意見通してもいいと思う。だから、スマホでホームページ使いづらいとか、SNS が堅いとかそこにもつながっていくんですけど、私たちの父さん母さんの世代の方とかは印刷物でお知らせするのがベストだと思うんですけど、子育て世代とか、もっと若い高校生とか中学生とか、スマホ持ってる子たちにもInstagramとか、農協さんとか役場の方々とか、発信する側も若い人向けって割り切ってやったほうがいいんじゃないかを感じる。正直、町のホームページはコロナの関係で開くぐらい。月一度広報があるので、それを見れば病院の予定もわかるし、今だったらホームページよりも、Facebook とかInstagramのほうが身近に感じる。やっぱり町内会って若い世代からすると、そこに言うことがめんどくさい、意見言っても通らないからいいやっていう考えにもなっちゃう。例えば NOSAI の託児所の職員に相談役になってもらって若いお母さんの意見を吸い上げるとか。そういうことをすれば世代を超えた町民参加っていうのが少しずつできるかなと考えた。

- ・ラインで市町村の情報が得られるという話は他の市町村でやっている所もあるから若い人から聞いていて、若い人はラインの方が情報得やすいと言っていた。

- ・匿名意見の募集について、お試して期間限定でやってみては？ただ、それをやっていますよっていうことをまず知らせるのが大事。学校を通して知らせるとか。

- ・役場としては情報発信のところが根底だと思うので、町民の人が見て、気軽に見やすくなるっていうことが大事だと思うので、この自治推進委員会からこういう風にしてもらい

ていっていうのを挙げるができるのでは。

- ・発熱外来が今すごく混雑していて、電話が一向に繋がらないということがあった。ホームページの入力フォームとかを利用して、前日に入力したら次の日病院から連絡がくるといようなシステムがあると、その点が改善できるのではないかと思った。

- ・協働のまちづくり補助金について、スタッフの弁当代等、スタッフに関する費用の助成を拡充してほしい。有償ボランティアという考え方をもう少し取り入れていかないと、続けていくだけでも続けていけない。

- ・ホームページがわかりやすくなってくれば、子どもたちって今学校でタブレットを持っているので、タップして見る楽しさをスタートに色々考えられると思う。

事務局

次回は、ホームページ、SNSの発信の仕方について、他のまちなどで参考になるもの等を具体的に挙げてもらって、具体的な改善点を考えましょう。

協働のまちづくり補助金の補助制度を紐解いて皆さんにお示しするので、制度の拡充とか規制の緩和について改善点を探りましょう。

3 その他

事務局

第7次別海町総合計画の見直しを来年度予定しています。今までだと、検討委員会を立ち上げていたが、自治推進委員会にその役を担ってもらうことを考えています。まだ予定の段階なので、そういう話があるということでご了承いただきたい。

4 閉 会